

たけのこに三日で抜かれる背くらべ

松村 隆良

普通と言う言葉の幅に気の迷い

竹本 タエ子

ここだけの話の筈があっちでも

田中 たづ子

熊騒動いつまで続く日本国

権代 芳範

孫遠く庭の果実は見せられず

坪郷 英美子

たけのこにみっかでぬかれるせいくらべ

まつむら たかよし

ふつうということばのはばにきのまよい

たけもと たえこ

ここだけのはなしのはずがあっちでも

たなか たづこ

くまそうどういつまでつづくにほんこく

ごんだい よしのり

まごとおくにわのかじつはみせられず

つばごう えみこ

言葉つき少し大人び柏餅

馬場 精作

実家しまい写真に見入り昭和の日

村瀧 富子

遠雷や一人昼餉のカップ麺

金内 憲一

野仏の褪せし前垂れ夏あざみ

林 保江

カタバミや小人のいたずらミニ爆弾

蓑島 啓子

ことばつきすこしおとなびかしわもち

ばば せいさく

じっかしまいしゃしんにみいりしょうわのひ

むらたき とみこ

えんらいやひとりひるげのかっぱめん

かねうち けんいち

のぼとけのあせしまえだれなつあざみ

はやし やすえ

かたばみやこびとのいたずらみにばくだん

みのしま けいこ

短歌

車やめどんどん歩く道の端
舗装の切れ目に光るたんぽぽ

福江 博子

猪の目こぼしらしき土匂う
十五センチの竹の子届く

河野 美津子

三方向墓じまいして広くなり
夏の陽まぶし亡夫の墓ぼつり

山口 正子

どんな時もママはあなたの味方だよ
ママも悩んで大きくなった

賤間 星

息子も六十路故郷へ来し日少なく
老母は帰りを指折り数へ

川本 禮子

くるまやめどんどんあるくみちのはし
ほそくのきれめにひかるたんぽぽ

ふくえ ひろこ

いのししのめこぼしらしきつちにおう
じゅうごせんちのたけのことどく

かわの みつこ

さんほうこうはかじまいしてひろくなり
なつのひまぶしつまのはかぼつり

やまぐち まさこ

どんなときもママはあなたのみかただよ
ままもなやんでおおきくなった

ざいま せい

こもむそじふるさとへきしひすくなく
はははかえりをゆびおりかぞえ

かわもと れいこ

自由律俳句

写真では見えない空気がここにある

岡村 裕司

あずきコトコトころソワソワ

松下 満江

手をとればありがとう 母の元氣

西岡 悦子

草には草の言い分がある

田中 久代

道すがら小さな石仏に頭を下げる

岡部 雅江

しゃしんではみえないくうきがここにある

おかむら ひろし

あずきことところそわそわ

まつした みつえ

てをとればありがとう ははのげんき

にしおか えつこ

くさにはくさのいいぶんがある

たなか ひさよ

みちすがらちいさないしぼとけにあたまをさげる

おかべ まさえ

